宮城は現在(いま)も現実(いま)に立ち向かう。

2016.8.11

NOW IS.

Vol. 4
毎月11日発行

ナウイズ

in松島・東松島

撮影地：東松島市／月浜海水浴場

ディスカバリーセンター（東松島市）
日本では初となるNOAA(アメリカ海洋大気庁)が作成したScience On a Sphere®（地球儀型スクリーン）を公開している施設。津波が太平洋に波及する映像を見ながら「こうやって仕組みを知れば、地震を過剰に怖がることもなくなりそうです」。

商店街（松島町）
「こういう店、昔はなかったですよね」と、震災後リニューアルした土産店をのぞく宮藤さん。

野蒜駅（東松島市）
旧野蒜駅周辺は大きな被害を受けたため、野蒜駅は内陸に建設された。これから住宅が建つエリア。

思い出と
あの時の気持ちは
この場所の
未来を変えるかも。

旧野蒜駅（東松島市）

NOW IS. | Inter-View |

MATSUSHIMA
HIGASHIMATSUSHIMA
松島・東松島

この地を「いい方向」に変えるため。宮藤官九郎さんと、松島・東松島に。

記憶の中にしか なくなった思い出の地。

たくさんのものを失いました。人、家、仕事、そして思い出。薄れかけている記憶をたどりながら海辺を歩き、昔を懐かしむ機会を、私たちはなくしてしまいました。

宮藤官九郎さんは、宮城県の内陸に位置する栗原市の出身。子どものころ、海に行くのは、夏の一大イベントだったそうです。「前の日の夜、眠れないパターン。家が文具屋だったので、親じゃなくて、店員さんが付き添いで来てくれて。バスに乗って行くんです。海が見えるとテンションあがりましたね」。

この日は、東松島市の月浜海水浴場から歩き出し、震災遺構として保存が決まっている旧野蒜（ひる）駅などを訪れたあと、松島町へ向かいます。

最初に訪れた東松島市の月浜海水浴場は、震災から5年たった今夏、本格的な営業再開が決まりました。

「ここも来たんじゃないかな。海っていえば南三陸の志津川か野蒜だったので。街並みが変わっちゃって思い出せないですが…」。旧野蒜駅でも、首をひねります。「ここは絶対来たはずですが、分からないな…」。そう言いながら、「やっぱりいい海ですね」とつぶやきます。「海水浴場、ようやく再開なんですね。知らなかった」。

災害の記憶が風化する過程は、宮藤さん自身も経験したことがあります。実家がある栗原市は平成20年「岩手・宮城内陸地震」に見舞われました。最大震度6強。山が崩れ、人が住めなくなった場所もありました。「当時は空撮映像がよく流れてましたけど、その時だけ。平成23年まで仮設に住んでいた人がいたそうですが、報道されなかったので知らなかった」。東京にいると、こちらの情報はなかなか入ってこないと言います。「被災地を舞台にしたフィクションが、本当は、今こそ、必要なのかもしれないですね」。

I MATSUSHIMA NOW IS MATSUSHIMA NOW IS HIGASHI MATSUSHIMA NOW IS MATSUSHIMA NOW IS HIGASHI MATSUSHIMA NOW IS MATSUSHIMA NOW IS HIGASHI MATSUSHIMA NOW IS MATSUSHIMA NOW IS HIGASHI MATSUSHIMA NOW IS MATSUSHIMA NOW IS HIGASHI MATSUSHIMA

忘れないことで、きっと変わることがある。

宮藤さんが脚本を手掛けたNHK連続テレビ小説『あまちゃん』が放送されたのは、平成25年。「早い」。そう感じたと言います。「被災地をフィクションで描くのにすごく抵抗があったんです。こっちの人は、当時も現実の中にいた。現実が追い付いていないのに、フィクションにする段階じゃないと」。『あまちゃん』で津波の様子はジオラマで表現されました。被災地の混乱は描かれず、東京にいたヒロインの視点で物語が進みます。「東京の人が過剰に怖がっているのが、すごく気持ち悪かった。避難所に来ると、けっこう自分の経験をネタに冗談を言ったりしている。なのに東京では、風評を信じて右往左往している。そういう温度差を分かりながら作品を作る必要は、今も感じています」。

なかでも、避難所のおじいさんが言った「3月11日より前のことは、前世の出来事のように感じる」という言葉が、強く印象に残っているそう。「だから過去のことばかり考えてもしょうがない、という言葉だったのですが、本当にそうだな、と思いました。今日、被災地を歩いてみて、復興は変わらず続いていると分かった。たぶん前に戻すだけじゃダメなんですよね。ここからいい方向に変えないと」。

最後に訪れた松島の観光地は、津波で多くの商店が浸水。再建が進むとともに、寺町情緒を感じさせる街並みに変化してきています。「震災が起きなかったら、なんて未来はもう、想像できなくなった。まだどうしたらいいか分からないけど、みんな震災を機に、大きく変わったことがありましたよね。あの時感じた気持ちを、大事にしたらいいのかな、と思います」。

（文：沼田佐和子）

▼今回訪れたまち▲

今回は2つの市町を訪れました。一つは、松島町。五大堂や瑞巌寺があり、世界中から観光客が訪れます。二つ目は、松島湾に浮かぶ「宮戸島」を擁する東松島市。航空自衛隊の基地もあります。

PROFILE

宮藤官九郎（くどう　かんくろう）

1970年7月19日生まれ、宮城県栗原市出身。大人計画所属。脚本家、監督、俳優、ミュージシャンなどとして、幅広く活躍。監督最新作には、長瀬智也主演『TOO YOUNG TO DIE！ 若くして死ぬ』があり、12月には作・演出・出演の舞台『サンパイザー兄弟』の仙台公演が控える。

VOICE of KEY PERSON

貴方がいれば大丈夫

01

この人がこの町を盛り上げてます！

次世代を担う子どもたちへ。海に誇りを持ってほしい。

全国の生産者とつながり、海苔を通じた活動の未来を模索。

「やっぱり目の前で直接おいしいと言ってもらえるのが一番うれしい。もっと知ってもらいたい、おいしい海苔を多くの人に届けたいと強く思っています」と話す津田さんは東松島市の海苔漁師。母親が立ち上げた「のり工房矢本」と連携しながら、こだわりの海苔を届けています。

震災で、家も工場も、すべてなくしてしまった津田さん。それでも、おいしい海苔を作りたいという想いが消えず、海苔漁師を続けています。作る上で心がけていることは「食べてくれる人の顔を思い浮かべながら育てること。仕上がった海苔は、必ず自分の舌で確かめて調整し、納得のいくものだけを商品にしています」。その想いは大曲浜全体の海苔の価値を高めたいと思うようになりました。「震災以降、ボランティアスタッフの人たちや取材関係の方など、いろいろな人と会うう ちに、人とのつながりで得られることの多さに気づきました」。

平成26年6月には、日本初の「海苔サミット」を東北大学で開催。津田さんは第1回の実行委員長を務めました。「サミットには、全国の若手漁師や関係者が集まります。地球温暖化などの環境変化や、海外から安い海苔が入ってくることによる消費者ニーズの多様化など、さまざまな角度から協議します。サミットは今年で3回目ですが、毎回勉強になります」。それ以外でも、学校での食育活動やワークショップなど、老若男女に大曲浜の海苔を知ってもらうための活動をしています。

「今後、大曲浜の海苔がお土産として定番になるよう、東松島のブランドにしたい。誇れる商品があれば、子どもたちももっと地元と海を好きになってくれると思うんです」。2児の父でもある津田さん。「自分の子どもが店や漁師を継いでくれた時の基盤も作っていきたい」と語ってくださいました。

お店の前に置かれた昔の漁で使っていた 浮き球。

母親が立ち上げた「のり工房矢本」。

のり工房矢本
津田（つだ） 大（ひろし）さん
問い合わせ先
TEL.0225-82-3612

内から支えるマンパワー じもと
MATSUSHIMA HIGASHI MATSUSHIMA
お助け 海外からのサポートパワー

MATSUSHIMA NOW IS MATSUSHIMA NOW IS HIGASHI MATSUSHIMA
NOW IS MATSUSHIMA NOW IS HIGASHI MATSUSHIMA NOW IS MATS

松島町産業観光課観光班
国際交流員
ロジャー スミスさん
（アメリカ）

写真を撮るのが趣味。独自の視点で松島町の景色を撮影している。

VOICE of KEY PERSON

貴方がいれば大丈夫

02

この人がこの町を盛り上げてます！

松島の魅力を世界にPR。外国人に伝わるおもてなしを。

ツアーや冊子で魅力を伝え、松島の観光復興を目指す。

ロジャーさんが国際交流員として松島町に着任したのは平成26年8月。主な仕事は、外国人観光客の受け入れ態勢を整えること、松島の観光情報を英語で世界に向けて発信することです。

アメリカのコネチカット州で地球温暖化防止や環境保全に取り組む市民団体で働いていたロジャーさん。東日本大震災をきっかけに、復興状況を自分の目で見たいと、平成24年10月に初めて宮城県を訪れます。「仙台を中心に複数の被災地で復興計画の話し合いに参加し、関係者に話を聞いたりしました。復興計画や環境未来都市に興味があり、被災地の復興支援に関わりたいと、国際交流員として働くことに決めました」。

海外からの旅行者は増えていますが、東北には6県を合わせても全国の1％程度しかいないのが現状です。ロジャーさんは、ホテルや商店の接客研修などを実施。英語表記に関しては「おもてなしの心をどう表現するかを大切にしています。例えば、松島湾特産の海苔を英訳すると『seaweed』ですが、これは、海岸に打ち上げられた臭い海藻という印象です。『sushi（スシ）grade』を付け足すと、印象は格段に良くなるんです」などとアドバイス。「英語での東北情報は少ないので、松島町のFacebook（Visit Matsushima）を更新し、町民と交流したことや、祭りの情報などを発信しています」。浴衣着付け体験や、町内を巡る外国人向けの無料ツアーも計画。地元の子供たちが英語で外国人観光客をガイドするイベントも企画しました。

福浦島の朱塗りの橋が好きと語るロジャーさん。「松島町は本当に美しいです。魅力をもっと伝えていくために、今後は体験ツアーのモデルコースも企画しています。松島町を含めて、陸前高田市や南三陸町など各自治体をつなげた計画を考えたいです」と話してくれました。

Newspaper 東松島市 Pick-Up

震災当時と今の河北新報記事から見る、復興の歩み。

一つの集落を消した大津波

2014.3.14

震災から2日後の平成23年3月14日、東松島市新町地区の地元住民を取材した際の記事が掲載されました。家族の行方が分からぬまま復旧活動にあたる消防団の男性や、母親を探して避難所を訪ね歩く女性など、地元住民の震災直後の声が記されています。

東松島市では、全世帯の約97％が住宅被害を受け、なかでも、この記事に書かれた新町地区は甚大な被害を受けました。その悲惨さは、「基礎だけを残した住宅、泥に埋もれた食器や生活道具…。東松島市野蒜の鳴瀬川河口に近い新町地区に入った。200世帯がほぼすべて、津波で流されている」という記事の内容や、津波で流された住宅や車が瓦礫と化した写真からも伝わってきます。

月浜海水浴場、本格営業へ

2016.2.5

「東松島市宮戸地区の月浜海水浴場が今夏、6年ぶりに本格的な営業を再開することになった。」というニュースが掲載された平成28年6月5日の記事。月浜海水浴場周辺は、民宿や家屋のほとんどが流出し、堤防工事が進められてきました。離島以外の海水浴場としては、県内で初めて営業再開したものの、日曜限定だったため、本格的な海開きは6年ぶりです。

震災前、宮城県内の海水浴場は28カ所。そのうち、月浜海水浴場を含む8カ所が今夏の営業を決めています。徐々にその数は増えてきたとはいえ、5年たった今も再開にこぎつけたのは約3分の1。一日も早く、多くの海水浴客でにぎわう宮城の海が戻るよう、整備が進められています。

© 河北新報社　※記事の詳細はみやぎ復興情報ポータルサイトに掲載します。

AR で見る定点観測

look at Miyagi

現在の東松島市

撮影地点 東松島市大曲

宮城県の中部で、太平洋に面している東松島市。東日本大震災では、津波被害によって、千人以上が犠牲となり、市内全住宅の3分の2を超える約一万一千棟が全半壊しました。大曲地区でも、港から住宅地を抜け北上運河まで船が流されるなど、大きな津波被害を受けました。現在は、優良な産業地区とするため、土地区画整理事業が進められています。

（写真提供：東松島市）

無料アプリ「**ココアル2**」を起動し、上記の被災直後の写真にかざすと、現在（平成28年6月）の東松島市の様子がご覧いただけます。ぜひ、被災地の移り変わりをご覧ください。

震災前の東松島市

（写真提供：東松島市）

COCOAR2 のダウンロードは「Google play」「App Store」から

COCOAR2に対応していない端末もございます。

無料アプリ「ココアル2」をダウンロードしてごらんください。

TOPICS 1

NOW IS / NEWS in MIYAGI

復興や防災にまつわるニュースをお知らせします。

NEWS 01 宮城県被災者転居支援センターについて

県では、「宮城県被災者転居支援センター」を設置し、応急仮設住宅の供与期間終了に向けて、住宅再建（確保）方法等が未定の方の新たな住まいの確保等を支援する取り組みを進めています。

本支援センターでは、住宅再建方法が未定の入居者に対して、市町から提供される入居者情報等に基づき、戸別訪問による相談支援を行うほか、各世帯の課題に応じた福祉サービス等の紹介を行っています。

ご利用を希望される方は、被災した際に住んでいた市町へご相談ください。

問.県震災援護室
☎.022-211-3257
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/engo/

NEWS 02 東松島市あおい地区で「青森ねぶた」の披露

東日本大震災で被災した方々を元気づけようと、NPO法人「青森じゃわめぎ隊」が主催で、「青森ねぶた」を震災以降毎年巡行しています。今年は昨年に引き続き、東松島市内の集団移転地のうち、世帯数が最も多いあおい地区を練り歩きます。青森ねぶた祭の「パワー」が、人と人とのつながりを生み出してくれています。

日時／9月24日（土）
場所／東松島市あおい地区
問.東松島市役所生活再建支援課
☎.0225-82-1111（内線1495）

NEWS 03 松島流灯会 海の盆

松島流灯会 海の盆は、どこか懐かしくて新しい夏祭り。毎年お盆に開催され、子どもから大人まで皆が夏祭りのにぎわいを楽しみます。

７００年間続く瑞巌寺大施餓鬼（ずいがんじおおせがき）会や灯籠流しの伝統を大切にし、古くから東北の霊場として知られる松島町の情緒ある時が流れる中、震災で亡くなった方への思いをはせ、鎮魂と供養を行います。

日時／
8月15日（月）・16日（火）
18時〜21時
場所／
松島海岸中央広場、
寺町周辺他

問.松島流灯会 海の盆
実行委員会
☎.022-354-2618
（松島観光協会内）

NEWS 04 世界に向けて「松島」を発信 松島こども英語ガイド

松島の子どもたちが英語で観光ガイドに挑戦します。松島町産業観光課のロジャースミスさんが全面サポート。「外国人観光客に松島町内をガイド」、「松島流灯会を留学生と浴衣でお祭りガイド」の2日間開催します。

観光やお祭りを楽しみながら、がんばる子どもたちを見に、松島町へぜひお越しください。

日時／「外国人観光客に松島を案内してみよう」
8月12日(金)9時〜12時
「松島流灯会海の盆でお祭りガイドをしてみよう」
8月15日(月)13時〜16時
場所／12日：松島町内、15日：松島海岸中央広場、
寺町周辺他

問.松島町産業観光課観光班 ☎.022-354-5708

NOW IS./ MIYAGI

MEDIA INFORMATION

今の被災地をリアルタイムで

ＳＮＳでは、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。Facebook、Instagram、Twitterでご覧ください。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

@南蒲生（仙台市）
[2016/08/01]

各SNSの検索窓で　いまを発信！復興みやぎ　検索

復興情報をお伝えします

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、NOW IS.取材チームによるブログで情報を発信します。

みやぎ復興情報ポータルサイト　http://www.fukkomiyagi.jp

TOPICS 3

明日への取り組み：むすび塾

河北新報 防災・減災 巡回ワークショップ

災害時、観光客に適切な避難誘導をするために。

今回の「むすび塾」は、平成28年7月29日、東松島市宮戸島の月浜地区集会所で開催されました。宮戸島は、東松島市野蒜地区と橋で結ばれた、自然豊かな島。6月末時点で人口は575人。震災では島民の多くが高台に逃げましたが、10人の犠牲が出ました。

今夏、地元の月浜海水浴場が6年ぶりに本格再開したのを受け、民宿経営者ら住民6人が観光客の避難対策を中心に話し合いました。宮戸島は、歴史的にも津波被害の多い場所です。平安時代の貞観地震の際、両岸から押し寄せた大津波が島の中央でぶつかったとされる場所（標高10メートル）に石碑が残されていたり、50年前のチリ地震津波の経験談が語り継がれていたり、高い防災意識が連綿と受け継がれてきました。

一方で、旅行者に対する備えの呼び掛けは、手が十分回っていないのが現状です。「震災の記憶が薄れ、避難を呼びかけても逃げてくれるか不安」、「初めてきた人にも分かるように、震災での津波の高さや、避難路などが分かる看板を増やしたい」といった声があがりました。進行役の減災・復興支援機構の宮下加奈専務理事は「少しでいいので、宿泊客に震災当時の話を交えて避難経路の案内をすると臨場感が増す」とアドバイス。避難を呼び掛ける際は、ひるまずに命令口調で伝えることなども助言。参加者は「災害時の心構えを確認できてよかった」「観光客には体験談を交え、説明するようにしたい」と話していました。

観光地での災害への対策としては、旅行者自身が、地元の観光事業者に体験談を尋ねたり、避難路を確かめたり「自らの備え」ができるようにすることが大切です。

むすび塾とは

東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、河北新報社が開催する巡回ワークショップ。「いのちと地域を守る」キャンペーンの一環として、平成24年5月から月1回、町内会や学校、企業などで開催し、平成28年7月で通算57回目となりました。

目的は、対談を通して震災時の教訓や減災・防災への備えを、あらためて考え直すこと。

ワークショップの様子は、河北新報紙面でも公開し、防災や復興への行動を後押ししています。

今までの「むすび塾」の記事は河北新報社のwebサイトでご覧いただけます。

http://www.kahoku.co.jp/special/bousai/

STAFF'S VOiCE

取材こぼれ話

編集後記

震災後、はじめて松島・東松島を訪れたのは、平成23年の夏ごろ。色のない景色のなかを言葉もなく運転していると、ナビから「まもなく、ふみきりです」の声。あれ？と思い周囲を見回しましたが、踏切どころか線路も見当たりません。全部津波に流されたんだ、と気づいたときの、肌が粟立つ感覚。今も鮮明に覚えています。

あれから5年、新しい野蒜駅は、海から離れた高台に再建されました。木のぬくもりを感じる三角屋根の小さな駅舎。この周辺でこれから始まる暮らしが、ずっと穏やかであることを願ってやみません。

保存が決まった旧野蒜駅。
旧駅舎は「震災伝承館」になります。

宮城県の東日本大震災死者数（関連死含む） 10,551人 | 行方不明者数 1,235人　平成28年6月30日現在 宮城県危機対策課調べ

NOW IS. 防災

もしものときにあなたを守る、
防災のヒントを、
12回にわたって紹介します。

Theme 4 避難生活

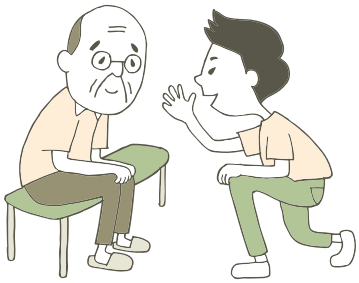
**自宅待機が難しい時は、必要な物を持って避難所へ―。
限られたスペースで、お互いに気持ちよく生活するためには
大人も子どもも、全員が人任せにしないで行動することが必要です。
ルールを守り、小さな心配りを忘れない、避難所生活の心得を知っておきましょう。**

子ども

**お薬手帳や粉ミルクなど
子どもに合わせた準備を!**

子どもは自分の状況や必要な物を、うまく伝えることができません。お薬手帳を携帯したり、乳児であれば粉ミルクや冷凍母乳、食物アレルギーがあればアレルギー対応食品を親が備蓄する必要があります。

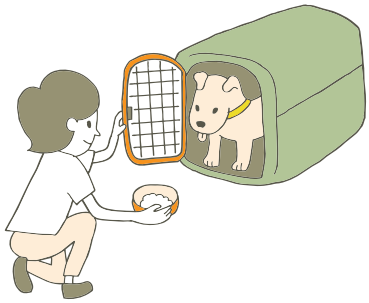
高齢者



**我慢しがちな高齢者には
積極的に声掛けを!**

眼鏡や入れ歯など、普段使う物は自分で準備しておきましょう。また、家族は福祉避難所の存在を知っておくことも必要。高齢者は不便があっても自分から言い出せないことがあるので、まわりの声掛けも大切です。

ペット連れ



**苦手な人がいるのも現実
避難所のルールを守ろう**

支援物資にはペット用のエサやペットシーツ等はほとんどないので、飼い主は備蓄を忘れずに。ペットも家族の一員ですが、苦手な人もいます。避難所のルールを守り、決められた場所で世話をしましょう。

取材協力：東北大学災害科学国際研究所　江川 新一 教授

防災コラム Vol.4

★避難所運営はみんなで考えよう！

★不平不満は我慢しないで話し合おう！

★誰でも何かできることがあるはず！

例えば、まわりに気を使う子連れでの避難なら、子連れファミリー用に部屋を開放してもらうよう働きかけるなど、避難所運営に積極的に関わることが大切です。不平不満が出てくるのは当たり前。その時はお互い我慢をしないで話し合いましょう。また、子どもや高齢者にも何か仕事をお願いすることも、避難所運営がうまくいくコツの一つです。

江川 新一 教授
東北大学災害科学国際研究所

災害医学研究部門災害医療国際協力学分野に所属。災害保健医療コーディネーターの標準化など、災害に強い医療供給体制づくりに取り組む。

NOW IS. vol.4 ナウイズ
昨年度までの「みやぎ復興プレス」をリニューアルしました。

発行：平成28年8月11日 宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel：022-211-2443　Fax：022-211-2493
『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県
Miyagi Prefectural Government